

# 小学校 道徳の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 感受性を豊かに働かせ、登場人物等の心情をより深く考え、情感込めて表現することができる。
- 自分とのかかわりでとらえた感謝する気持ちを具体的な言葉で表し、道徳的な価値観の変化や成長を自ら実感できる。

思考力、表現力、感受性の育成

- 学年 第2学年
- 主題名 いただきます 2-(4) □ 資料名 「きゅう食のパン」(自作資料)
- 本時のねらい パン工場の見学後、給食を残さず食べようとするてつやの心情を考えることを通して、自分たちのために働いてくれる人々の労苦を理解し、感謝する心情を育てる。
- 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項	評価の観点(評価方法)
1 好きな給食のパンについて話し合う。	・題名から好きなパンを出し合い、興味・関心をもたせる。	<p>・パン工場の人たちに感謝の気持ちを持ち、給食を残さず食べようとしているてつやの気持ちを自分とのかかわりでとらえることができたか。〔主人公の心情についての思考・表現〕(ワークシート、「心のノート」,「ありがとうカード」の記述,行動観察,発言)</p>
2 資料「きゅう食のパン」を聞いて話し合う。 〔発問と予想される児童の反応〕	・主人公の様子を把握できるよう、場面絵を提示しながら読み語り、主人公のおかれた状況をつかませる。	
○てつやは、どんな気持ちで、残りのパンを見つめていたのでしょうか。 ・ブランコにのれなくなる。・はやく遊びに行きたい。・残そうか食べようかどうしよう。	・実際に見学時に撮影した写真やキーワードを提示することにより、自分たちが体験したことを引き出し、パン工場働く人々の姿や心情をおさえる。	
○パンを作っている人たちを見て、てつやはどんなことを考えたでしょう。 ・朝早くから時間をかけて作っているんだ。・たくさん作っているな。 ・パンを作るのは大変なんだな。・パンを残して悪かったな。	・ワークシートに記入させることで、自分の考えを整理させるとともに、意図的指名により、感謝の気持ちをもつ主人公の気持ちに共感させていく。	
◎てつやは、どんな気持ちで「先に行っという」と言ったのでしょうか。 ・もう残さないように食べよう。・おいしく食べるよ。 ・一生懸命作ってくれてありがとう。・朝早くから作ってくれてありがとう。		
3 自分の生活を振り返り、ありがとうを伝えたい人について考える。	・だれにどんなありがとうを伝えたいか「ありがとうカード」(「こころのノート」p.51)に記入させた後、全体で話し合わせる。	
4 教師の話を聞く。	・お世話になった人に「ありがとうカード」を渡すことを知らせ、事後の書く活動につなげていく。	

言語活動の充実

## 指導のポイント

### 豊かな感受性、表現力をはぐくむため各教科等との関連をもたせた指導を工夫する

■ 各教科等や体験活動と道徳の時間をつなげて考えさせる工夫をしましょう。例えば、生活科における「町たんけん」での見学(体験活動)を新聞にまとめたり、その体験を国語科で作文に書いたりしたことを関連させます。学習活動2で、実際に児童が見学したときの写真を提示したり、机間指導の際、児童が作文や新聞に書いたことを想起させたりすることにより、児童の感性に訴え、主人公の心情をより深く考え、表現させることができます。



見学の写真等を板書にも生かす。

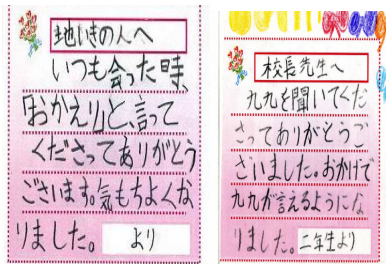
#### ※ 教材開発にチャレンジ

見学をもとにした自作資料を作成・活用することにより、児童の感性を揺り動かし、考えを深めさせることへの効果を一層期待できます。

### 児童が自分の考えを深め、一単位時間の指導の中での道徳的な成長とともに、長期にわたる道徳的な成長を自ら実感できるように、書く活動を工夫する

■ 道徳的価値の含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、道徳的な成長を自ら実感できるように、事前・事後指導を含めて書く活動を工夫しましょう。また、児童の書いたワークシートや日記、作文など蓄積した道徳ノートを作り、心の成長の記録として継続的に活用していきましょう。

- 考えを深めさせるために、話し合いの結果を踏まえて書いたり、書いたことを話し合いに生かしたりする等、工夫しましょう。
- 道徳的価値をとらえさせるために、書く目的や内容の明確化、必要な時間の確保に留意しましょう。



〔児童の日記から〕  
12時間かけてパンを作るのを聞いてびっくりしました。そのパンを毎日わたしたちは、たべているんだな。てつやのように、こんどからのこさないようにたべたいです。ありがとうカードをわたせてよかったです。

#### 新学習指導要領では

### 道徳的価値観の形成を図る観点から、「体験活動」や「言葉」を生かした指導を一層重視

- 言葉は、知的活動だけでなく、コミュニケーションや感性、情緒の基盤となります。今回の改訂では、学校の内外での様々な体験を通して感じ、考えたことを、道徳の時間に言葉を用いて生かし合うことが求められています。その指導においては、自分の考えを基に、書く活動や話し合い活動などを通して、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるようにすることを目指しています。
- 本事例では、各教科等や体験活動と道徳の時間を関連させていく中で、言葉の能力を生かし、一層高めめます。本時の学習活動の書く活動では、自分の考えをもたせたり整理させたりすることにより、道徳的価値をより強く自分とのかかわりでとらえます。また、事後活動における「ありがとうカード」の記入により、自分の思いや考えの変化から自らの成長を実感します。

